



大 梅

D A I B A I



大梅拈華山圓通正法寺

ご挨拶

正法寺 山主 盛田 正孝

平成29年2月15日(水)、再開单してより皆様方のお力添えを頂き、拙い乍らも僧堂としての歩みを進めることが出来ておりますこと有難く存じております。

本年、ある安居希望者が上山致しました。彼は本山安居経験者であり、有資格者であります。こ

こ十年来就職し寺を離れておりましたが師匠により寺に戻る様にとの連絡が入ります。その時師匠は十年の娑婆生活のホコリを正法寺で落としてから戻つて来る様にと命じました。私は有資格者であつても時には僧堂に身を置くことの大切さを痛感している者として誠に嬉しいことであり大歓迎でした。一人でも多くの方が長さにかかわらず僧堂に出入り出来る様にと願つております。そこにある思いとは我々の多くが寺の子として生を受け、僧になるべく育てられます。人生の指針としての宗教を選ぶと言う選択肢は殆ど無きに等しいわけです。本来ならば人生を全うする為に自己の全てを託すに価する教えを選ぶ。それが佛教として次に出来で行くか在家にするか。そして出家を選んだとする。そこで何が違うのか。「戒律」である。戒によりて自己を律する覚悟を決める。そこに「あの人はどこか違う。娑婆と切れたところがある」と。これなくしてどうして禅僧と言えるかと言う事を自らに問うことの重要さだけは修行僧に伝えて行きたいと思つております。

何卒宜しくお願ひ申し上げます。

ご挨拶

正法寺末寺護持会会长 願成寺 芳川 春彦

残暑お見舞い申し上げます。正法寺通信「大梅」も第15号の発刊となりました。

新型コロナも5類に移行し、感染者も落ち着いてきていることから、6月の開山忌、末寺護持会総会を御本寺様を会場に開催いたしました。4年ぶりの恒例行事ということもあり、久しぶりに県内外より末寺の皆様も随喜され旧交を温める行事となりました。山内に於いても、ここまでコロナ感染者を一人も出さず僧堂を運営されてきましたこと、山主老師を始め役寮の皆様のご尽力の賜と拝察いたしております。これから秋に向け一般拝観者が以前同様に増えてくれることを祈念しております。また、「大梅」をご覧の皆様には常日頃より正法寺ご支援に沢山のご厚情を寄せていたとき、ありがたく思つております。僧堂運営もますます厳しいものが予測されます。僧堂内外も少子化の影響により、様々な工夫をして従来の行事をすすめなければならなくなつております。僧堂運営もますます厳しいものが予測されますが、皆様方の更なるご理解とご協力の程をお願い申し上げ、発刊のご挨拶といたします。

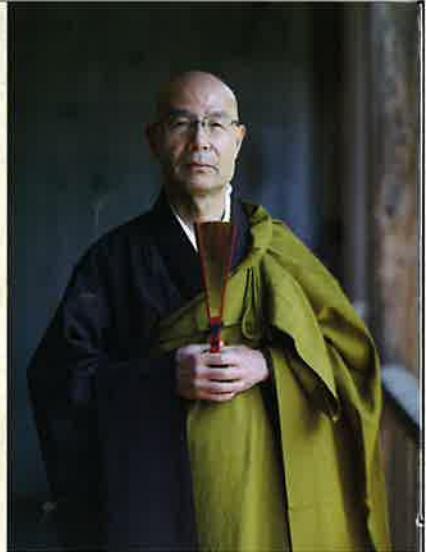


誦」(導師・松森弘隆單頭)。

▼4月19日(水)「朝課罷」、「小參」(小參師・當職)、「結制人事行礼」を修行。

▼5月22日(月)「本則行茶」(從容錄第十三則「臨濟瞎驢」)、首座の師匠様、隨行の方々の御臨席のもと、盛田山主より提唱をいただきました。

僧堂だより



正法寺 後堂 春日 和光

▼1月5日(木)よりおこなわれた寒行托鉢が2月3日(金)に満行しました。

▼2月15日(水)「涅槃会」を盛田山主導師の下に厳修しました。

▼2月23日(木)「當山二祖月泉良印大和尚正當逮夜諷經」を松森单頭導師で修行。

▼3月11日(土)14時46分「東日本大震災物故者慰靈法要」を当職導師により厳修しました。

●被災地の太平洋沿岸から車で1時間ほど西方に位置する当専門僧堂としては、

その事態と罹災者の思いを重く受け止め、盛田正孝山主の指示により日分行持の晚課にて罹災物故者の御供養を続けています。

▼4月18日(火)「夏安居配役行茶」。

了而、「首座入寺式(石原大輔兄・東京都第386番 龍昌寺徒弟)」、「結制土地堂念

誦」(導師・松森弘隆單頭)。

▼7月14日(金)「解制土地堂念誦」(導師・松森单頭)。了而、「楞嚴會滿散」(導師・當職)、「解制人事行礼」、「木村法道特別講師乞暇の拝」(関連記事P3記載)、夏安居解制となる。粥罷、「円鏡調印式」。

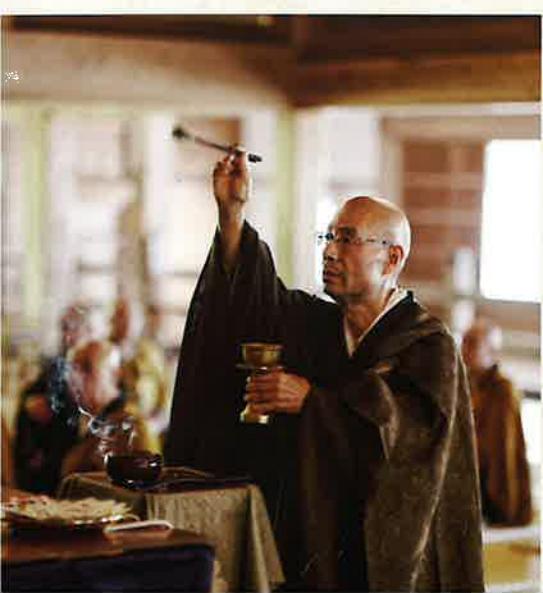
▼7月30日(日)、海野布教師による法話。了而、盛田正孝山主導師による「山門盂蘭盆大施食会」を厳修しました。

▼来る10月16日(月)、「熊野大権現大祭祈禱会」の前日15日斎罷に「羅漢講式」を行すべく法式声明練習を重ねる等、諸準備を進めております。末山御寺院様や有縁の宗侶方には改めて御案内申し上げますので、その節には御法愛のほど宜しくお願い申し上げます。

●以前にもご報告の通り、令和3年度は57歳の守徳大謙大和尚慈明忌正當獻飯諷經(焼香師・山形県鶴岡市善寶寺山主・水口道雄老師)を特為獻供差定にて嚴修。了而、「當山開祖無底良韶禪師正當獻飯諷經」(導師・盛田正孝山主)を十八拝差定にて厳修しました。

●「開山忌法要」は、新型コロナ禍以来、山内と法縁ある一部の御寺院のみの内勤にて修行して参りましたが、本年5月8日(月)よりその位置づけが第2類から第5類に引き下げられたことを受け、4年ぶりに末山御寺院方の満堂のご随喜を得て修行することができ、感無量なるものがありました。

●今後とも、本僧堂では各人各様の安居や研修を受け入れて参りますので、ご希望の方は当僧堂受付まで御照会くださいますようご案内申し上げます。



釈尊涅槃会

令和5年2月15日(水)、法堂に於いて、「釈尊涅槃会」ならびに「涅槃図開眼供養」を厳修しました。盛田正孝山主が導師を勤め、まず「釈尊涅槃会」を修行した後、仏画師の安井妙洋氏から寄進された常設展示用の新しい「涅槃図」の開眼供養を執り行いました。二つの法要が終わり、安井氏から『涅槃図を語る』と題して、講演が行われました。

現在、奉納された新涅槃図は法堂東間

奥の千手観音様のお隣に常設展示して、参拝者がいつでも御覧いただけるようにしております。



木村法道特別講師送行



木村 法道

(新潟県第533番長昌寺住職)

今般、令和5年夏制中の解制をもつて送行させて頂く事になりました。

思えば平成29年2月15日の正法寺専門僧堂の再開宴に当たり、上山、勤務致してより、約6年半の在籍がありました。その間、盛田正孝堂長老師の御薰陶の元で、役寮も大衆も行持綿密での修行でした。正法寺は四季を感じられる素晴らしい環境で、修行道場として最適の場所であります。多くの人との出会いは何ものにも代え難い法縁でありました。また、元第3の本山としての誇りと気品ある雰囲気は、自ら襟を正す日々でもあります。

「霧の中を行けば覚えざるに衣しめる」を実感致した6年半でございました。

益々の正法寺専門僧堂の興隆ならん事を御祈念申し上げて、送行のご挨拶と致します。

法道合掌



『開山忌』併修『当山五十七世守徳大謙大和尚 慈明忌』

令和5年6月13日(火)、法堂に於いて、『当山五十七世守徳大謙大和尚(埼玉県第468番廣見寺三十一世住職)慈明忌 速夜獻湯諷經』を松森弘隆単頭が導師を務め特為獻湯差定にて嚴修いたしました。

先住忌速夜法要後、改めて、殿鐘が打ち出され『当山開祖無底良昭禪師速夜獻湯諷經』を春日和光後堂が導師を務め諷經差定においては略歎仏会を執り行いました。

翌14日(水)、最初に、焼香師としてお招きした山形県善寶寺山主、水口道雄老師による五鑿三拝。続いて、『当山五十七世守徳大謙大和尚慈明忌正當獻飯諷經』を嚴修。先住忌正當了而、『当山開祖無底良昭禪師正當獻飯諷經』では、盛田正孝山主が導師を務めました。

新型コロナ禍以来、小規模にて開山忌を勤めて参りましたが、焼香師ご随行・五十七世法孫とご隨行の皆様や末山ご寺院のご隨喜を得て荘厳裡に嚴修することが出来ました。





令和五年夏制中
首座法戦式
『臨済瞎驢』

令和5年4月18日(火)より、首座・石原大輔(東京都 第386番 龍昌寺徒弟)、書記・伊藤裕磨(岩手県第120番 菅生院副住職)、辨事・熊谷浩雄(秋田県 第116番 龍安寺徒弟)を中心に、夏制中に入りました。

入制に際し、18日(火)に配役行茶、首座入寺式、入制土地堂念誦が、翌19日(水)朝課罷に法堂人事行礼、僧堂人事行礼をそれぞれ修行しました。5月22日(月)の本則行茶では、盛田正孝山主から、從容録第13則『臨済瞎驢』について、提唱を頂きました。翌23日(火)には首座法戦式が厳修されました。盛田山主よりの丁寧なご指導のもと、大輔首座の気迫のこもった答話により、修行のテーマをしっかりと理解した10問の商量を見事説破致しました。



本制中に当たつての意気込み



東京都 第386番
龍昌寺 徒弟 石原 大輔

『首座』

令和5年夏制中の首座を務めさせて頂きました。はじめ山主老師からは、「実力不足なのは分かっている。でも、やつたら、やつただけの経験が得られるだろう」とのお言葉を頂戴しておりました。

正に山主老師の仰る通りでした。上山して半年そこらで第一座として修行することができたのも、御老僧方、役寮さんは勿論のこと、古参、同安居、新到和尚、皆様のお陰でした。一人で修行しているのではなく、大衆一如であることを見に銘じながら、しっかりと務めました。

また90日間、首座の任に当たりながら、毎朝、楞嚴頭を務める事もできました。初めは読むのがたどしきかった楞嚴呪も楞嚴会満散を迎える頃には、しっかりと読めるようになります。楞嚴会満散の時には、日々の修行の成果を感じる事ができました。正法寺専門僧堂における第一座の経験は、これから仏道を歩む上で、大きな学びとなりました。この貴重な経験の機会をくださった山主老師、御老僧、役寮さんに感謝申し上げます。



秋田県 第116番
龍安寺 徒弟 熊谷 浩雄

『弁事の任』

私は今夏制中に弁事和尚の配役を頂戴いたしました。弁事和尚とは、制中の間、書記和尚さんと共に首座和尚さんを補佐するほか、首座法戰式では開口板を読み上げ、首座への問答を最初に問い合わせる任を持った和尚の事です。私は正法寺に安居する以前に師寮寺で首座法戰式を行い、無事首座和尚の任を果たした事があります。その経験を活かして今制中、弁事の任を果たすことができました。

制中は様々な出来事がありましたが、私がその中でも苦戦したのが楞嚴会と新到和尚さんの指導です。楞嚴会とは夏制中の間、朝のお勤めの前に行うもので、初めて読むお經に戸惑いながらも、読み馴れるまで時間を要しました。また、新到和尚さんの指導では、今まで自分が古参和尚さん方から教えて頂いた事を全て教えることが出来るのか不安でした。時間はかかりましたが、その任も果たすことになりました。出来たと思います。今制中で得られたもの、感じたものを忘れず、日々、精進して参りたいと存じます。ありがとうございました。



月例法話会



盛田山主着任当初より、正法寺は仏の光を観る、まさに観光のお寺として法話によって仏法を伝えるお寺として出発するという理念にもとづき、本年で3年目を迎える月例法話会です。

本年も、盛田山主を皮切りに海野布教師、松森单頭、春日後堂により毎月第一日曜日（8月は除く）に開催しております。お釈迦様の教え、祖師方の教えを丁寧にわかりやすくお伝えするよう、各役寮特色のあるお話をしております。



5月14日(日)、法堂内において守時タツ

ミピアノコンサートが開催され約50名が参加されました。今年で3回目となる守時タツさんのコンサートですが、新緑の風に吹かれながら爽やかな旋律が流れ、「おとえほん」の朗読もあり、時に手拍子が鳴り時にホロッと涙するシーンもありました。

守時さんは、全国各地のロケーションを題材に楽曲を作られ、さらに演奏のために全国を廻っておられます。

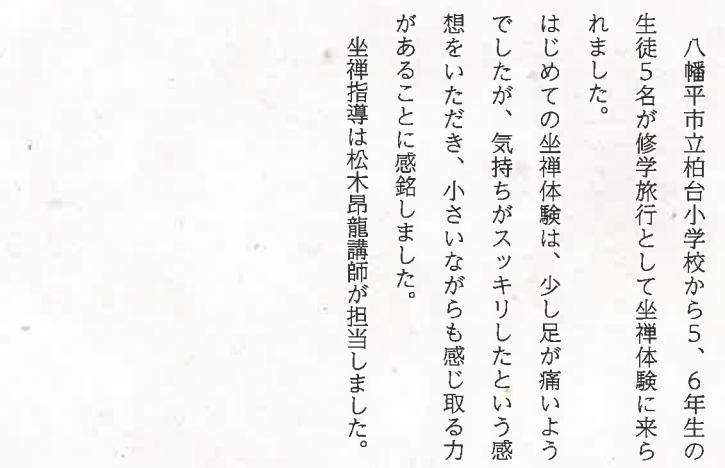


4月9日(日)、法堂内において仏前結婚

式が執り行われました。松森弘隆单頭が式師として、新郎は岩手県出身、新婦はオーストリア出身のお二人が、お釈迦様に永久の契りを誓いました。

オーストリアの方が仏前にて永遠の愛を誓う機会に恵まれ、国を超えてお釈迦様のご縁と新郎様とのご縁に結ばれたことを山内一同でお祝いいたしました。

これから新たな進路に幸多きことをお祈りし、合格祈願札をお渡ししました。



▼6月1日(木)

八幡平市立柏台小学校から5、6年生の生徒5名が修学旅行として坐禅体験に来られました。

はじめての坐禅体験は、少し足が痛いようでしたが、気持ちがスッキリしたという感想をいただき、小さいながらも感じ取る力があることに感銘しました。

坐禅指導は松木昂龍講師が担当しました。

守時タツミ・ピアノコンサート

仏前結婚式

修学旅行

▼5月2日(火)

水沢第一高等学校より約120名の3年生の生徒さんが法堂内において坐禅を体験され、これから進路に対する心持を新たにされました。これほどまでに静かに何もしない時間は、生まれて初めてという声もあり、坐禅の素晴らしさと正法寺山内の莊厳さを肌で感じられたようです。

これから新たな進路に幸多きことをお祈りし、合格祈願札をお渡ししました。

坐禅体験

▼6月16日(金)

花巻市シニア大学の皆さんのがご来山され、坐禅体験と拝観をされました。

花巻において、皆様が目的別に学びの場を持たれるシニア世代の皆さんのがご来山され、心静かに坐禅を体験され、その後に担当役員の法話をお聞きになり、日本一の茅葺屋根や山内の伽藍を拝観されました。

午前中 生活学部21名。午後 ポラン学部12名。

▼7月8日(土)

水沢第一高等学校からアメリカからの留学生とホストファミリーの生徒さん約20名が坐禅体験にご来山されました。当日は、海野義範布教師が坐禅指導を担当し、日本語と英語それぞれの説明をいたしました。

アメリカからの学生は、脚の組み方に苦労していたようですが、心の考え方を知った時は大きくうなづかれ、坐禅の奥深さに納得した様子でした。

その後は、山内を拝観し禅の教えが流れる伽藍の作りに圧倒されているようでした。

帰りには、法堂前にて全員で合掌して記念写真を撮影されておりました。



▼6月23日(金)

水沢諸流華道会の皆様が松森单頭による

法話をお聞きになりました。

▼5月20日(土)

奥州市自徳寺の檀信徒様がご来山になり、盛田山主の法話をお聞きになりました。

花巻シニア大学の皆さんのが坐禅体験の後に、海野布教師による法話をお聞きになりました。

▼6月16日(金)・22日(木)

花巻シニア大学の皆さんのが坐禅体験の後に、

海野布教師による法話をお聞きになりました。

法話をお聞きになりました。

▼6月23日(金)

水沢諸流華道会の皆様が松森单頭による

法話をお聞きになりました。

聞法会

▼5月20日(土)

奥州市自徳寺の檀信徒様がご来山になり、盛田山主の法話をお聞きになりました。

法話をお聞きになりました。

▼6月16日(金)・22日(木)

花巻シニア大学の皆さんのが坐禅体験の後に、

海野布教師による法話をお聞きになりました。

法話をお聞きになりました。

▼6月23日(金)

水沢諸流華道会の皆様が松森单頭による

法話をお聞きになりました。

みちのく緑陰禅の集い

▼7月20日(木)

岩手県曹洞宗青年会主催の『みちのく緑陰禅の集い』が開催されました。青年会員約40名の皆さんのが來山され、法堂において坐禅を2炷されました。

新型コロナウイルス感染症が収束に向かいつつある本年ですが、今回も参加者を集めずに青年会会員だけでの研修となりました。が、鎌山禪師から峨山禪師へ、そして無底禪師へ伝わった禪風を肌で感じ取る坐禅となつたようでした。



姫神コンサート

「七百年の祈り」

来る9月30日。「七百年の祈り」と題しまして、姫神コンサートが開催されることとなりました。

第一部は、心の平穏をテーマに法話と坐禪と般若心経のコラボレーション。

第二部は、禅の教えが東北に伝わった七百年の時を祈る「姫神」コンサート。禅の精神が宿る正法寺で、心安まる安寧の旋律に身をゆだねてみませんか。

《お問い合わせ》

大梅拈華山圓通 正法寺受處 / 0197-26-4041

お申し込みメール / contact@shoboji.net

FAX / 0197-26-4107

※ 氏名、人數、チケット送付先郵便番号、住所、電話番号を
明記の上お申し込みください。



詳しくはこちら↑

安居者募集中

正法寺専門僧堂では、安居者を募集しております。少子化が進む現代において、

盛田正孝山主の考える僧侶教育を実践するべく、大本山永平寺維那を務めた春日和光

後堂をはじめ、現在は14名の役員が従事し修行僧の育成に励んでおります。四九日ににおいても晴天を欠かさずおこなう山風のかで、典座和尚による精進料理、維那講師による法要指導、特派梅花講師による梅花講義、特派布教師による布教の心得など多岐にわたり修行経験を積むことができるのが正法寺専門僧堂の特徴です。

僧堂の在り方が問われる今、お弟子様の修行の場として、正法寺専門僧堂をご案内いただければ幸いです。安居募集期間は、春秋と秋の解期間となります。制中期間においてもお受けすることができます。その際は、ご相談ください。

また、参禅の経験を長く積まれた方で、本来の修行を経験してみたい一般の方の修行も募集しております。ご本人の希望をお聞きしながら、期間や内容を決めることができますので、修行体験をご希望の方はご連絡ください。ただし、修行には、参禅道場からのご推薦をいただいてのお申込みとなります。

正法寺専門僧堂は年間2期間の開旦過を設け、弘法利生を志す安居者を募集しております。

夏安居開旦過 1月20日～3月31日 / 冬安居開旦過 7月20日～9月30日

《掛搭資格》

曹洞宗の僧籍簿に登録されている者であって中学校卒業以上の者。

本山僧堂への安居修行後、更なる坐禪修行、参究・実践を積まれたい方。諸事情により、本山僧堂への安居が難しい方も御相談下さい。※正法寺専門僧堂堂則より引用

僧堂安居を希望される方は、「正法寺専門僧堂 監事寮」までお問い合わせ下さい。監事寮より掛搭志願資料をお送り致します。

正法寺専門僧堂 監事寮

Tel. 0197-26-4041(代) / Fax. 0197-26-4107(代) / Url. shoboji.net/professional_sodo/

受付時間 9:00～17:00 (11月～3月は16:00まで) 無休

- 正法寺発展興隆奉贊会協賛者御芳名 -
(令和4年 12月1日～令和5年 5月31日まで受付分)

令和5年度 正法寺發展興隆奉贊会協贊金予算書

1. 収入の部			
科 目	予 算 額(円)	前 年 度 予 算 額(円)	備 考
1. 会費	1,500,000	1,500,000	150カ寺(名)
2. 協賛金	3,000,000	3,000,000	
3. 繰越金	2,789,477	2,873,656	
4. 雑収入	1,000	1,000	
合 计	7,290,477	7,374,656	

令和4年度 正法寺發展興隆奉贊会協賛金決算書

科目	予算額(円)	決算額(円)	備考
1. 会費	1,500,000	1,930,000	193カ寺(名)
2. 協賛金	3,000,000	5,574,000	
3. 繰越金	2,873,656	2,873,656	
4. 雑収入	1,000	21	利子
合計	7,374,656	(1)10,377,677	

2. 支出の部

科目	予算額(円)	前年度予算額(円)
1. 常什助成金	3,000,000	3,000,000
2. 事務費	50,000	50,000
3. 営繕費	2,500,000	2,500,000
4. 予備費	1,740,477	1,824,656
合計	7,290,477	7,374,656

2. 支出の部

科 目	予 算 額(円)	決 算 額(円)	備 考
1. 常仕助成金	3,000,000	5,000,000	
2. 事務費	50,000	64,800	
3. 営繕費	2,500,000	2,497,000	鐘樓堂付近石積復旧
4. 予備費	1,824,656	26,400	封筒印刷
合 計	7,374,656	②7,588,200	

3. 営繕費

4. 予備費 1,740,477 1,824,656
 合計 7,290,477 7,374,656

3. 営繕費

4. 予備費 1,824,656 26,400 封筒印刷
 合計 7,374,656 ②7,588,200

3. 差引残額

すようお願い申しあげます。
なお、郵便振替払込領収書を本会
の領収書に替えさせていただきます
ことをご了承願います。

発展興隆奉賛会事務局より